

次世代の育成と 安心して暮らせる 地域づくり

店頭募金寄付先のNGO/NPOや学校とともに、次世代を担う子どもたちに向けた様々な育成支援活動に取り組んでいます。

また、それぞれの店舗が地域に根差し、「安全・安心の拠点」として、子どもから高齢者まで安心して暮らせるより良い地域づくりに貢献しています。

Contents

- ・ありがとうの手紙コンテスト
- ・ファミリーマート夢の掛け橋募金
- ・ベルマーク活動／出前授業・企業訪問
- ・地域社会の安全・安心を守る拠点として



ありがとうの手紙コンテスト

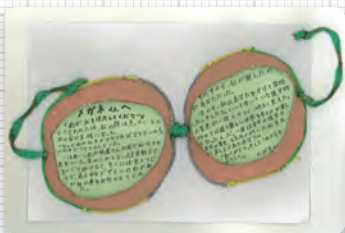
「ありがとう」が溢れる地域社会に
「ありがとうの手紙コンテスト」を主催

全国の小学生を対象に、感謝の気持ちを「文字」や「言葉」で伝え、コミュニケーションを持つことの大切さを学んでもらう機会として、「ファミリーマートありがとうの手紙コンテスト」を開催しています。

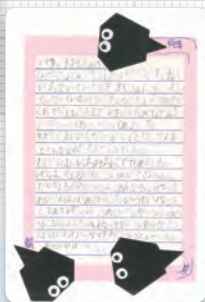
ジャーナリストの池上彰さんを審査員長に迎え、2009年よりスタートしたもので、昨年は3万4,102通、累計で28万通を超える「ありがとうの手紙」が全国から寄せられています。



● 2017年度最優秀作品の一部



北海道・東北ブロック高学年の部



関東1ブロック低学年の部

学校は子どもたちの家庭と地域をつなぐ重要な場所。地域社会の一員であるファミリーマートは、このコンテストを通じて学校と地域のつながり・絆を深めることにも貢献しています。また受賞作品の一部が2社の道徳の教科書（2018年度）に採用され、学校教育の現場でも活用されています。審査員長の池上彰さんは、「相手を大切に思い、感謝の気持ちを手紙で伝えることは、子どもたちの成長につながります」と、このコンテストの教育的な役割を評価しています。

最優秀作品賞の表彰式は、受賞者が通う小学校で、児童のご家族や近隣店舗の店長、ファミリーマート社員も参加して開催され、学校とともに児童の活躍を称える場となっています。地域の学校と連携しながら、コンテストを通じて子どもたちの「ありがとう」の気持ちを育み、豊かな地域社会づくりに貢献しています。



授業で全校生徒が取り組む「ありがとうの手紙」

<2017年度 学校・団体賞>

埼玉県上尾市立原市小学校

上野 明校長先生

心の中の感謝の気持ちをありのままに表現する、そして何よりも文章に表すことが、このコンテストの意義ととらえ、2012年から全学年で参加しています。

学校は、子どもたちの親御さんや地域とのつながりが最も重要です。地域で身近な企業が主催する『手紙を書く』というこのコンテストは、まさに地域と学校とのつながりを深めるものだと

思っています。今回、『学校・団体賞』をいただきましたが、高く評価された理由は、子どもたちの素直な表現にあるように思っています。子どもたちの目に見える、そして意識の中の視点は様々で、手紙にはいろんな発見があります。ふだん言えない家族や友だち、そして動物や物にも、だれにも見せない心の中を、自然体で感謝の言葉として

綴っています。学校全体で受賞したことが何より嬉しく感じています。



黒木 麻美先生(道徳主任)

SNSやデジタルゲームの時代にあって、こうしたア



ナログな取り組みは、落ち着いて自分の考えや思いを表現するという意味で、とても有意義なものだと考えています。

本校では毎年、道徳の授業で1時限使い、『ありがとうの手紙』を全校児童が書いています。子どもたちが自分の気持ちを素直に表現することができるので、手紙を読むとふだん気付

かない、いろいろな面を発見することができます。毎年ありがとうの手紙を書くことを楽しみにしている児童もいます。

そして何よりも、継続していることで手紙を通して、子どもたちが進級するに従い成長していることを感じる事ができるのも、教師として嬉しいことです。

表彰式に参加したお店の声

最優秀作品賞の表彰式は、受賞者が通う小学校で行っています。近隣のファミリーマートのお店も児童の活躍を祝うために参加し、喜びを分かち合っています。



長野県諏訪市立中洲小学校



群馬県太田市立荊川西小学校

Voice

ファミリーマート太秦小学校前店

鵜川 雅士オーナー

京都府京都市立太秦小学校の表彰式に参加しました。小学校が店舗の近くなので、毎日子どもたちが元気に登校する姿を見守っています。今回の受賞は身近な学校の児童だけに嬉しかったですね。受賞式にも立ち会い、ご家族や先生方の喜ぶ顔を一緒に見ることができ本当に感動しました！



Voice

ファミリーマート吉川会津店

吉川 隆善オーナー

福島県会津若松市立一箕小学校の表彰式に初めて参加しました。ご本人だけでなくご両親や先生方が受賞を喜んでいる姿を見て、本当に素敵な瞬間に立ち会うことができたと感じました。心があたたまる素敵な受賞式ですね。コンテストが子どもたちの成長に役立っていることを実感できました！



Voice

ファミリーマート鹿島高津原店

山田 美由紀店長

近くの佐賀県鹿島市立明倫小学校の児童が受賞したと聞き、『何かできることはないか』と思い、フラワーリースを手作りして贈呈しました。ご家族も感動してくださり、コンテストが子どもたちの考えや成長を実感できるいい取り組みになっていると感じました！



ファミリーマート夢の掛け橋募金

今から25年前の1993年に、ファミリーマートは全店のレジ横に募金箱を設置し、店頭募金の受付を開始しました。お客さまと、活動を行っているNGO/NPOとの「掛け橋」となり、協働で社会的な活動に取り組むため、「ファミリーマート夢の掛け橋募金」として募金活動を行っています。

お預かりした募金は、株式会社ファミリーマートからの企業寄付(マッチングギフト*)と合わせて、世界の子どもたちを含めた次世代育成支援と環境保全活動などの事業に役立てられています。

また、国内外で大規模な災害が発生した場合は、「災害義援金募金」に切り替え、被災地支援を行っています。

* マッチングギフト…募金総額に対して、企業などが一定の比率を掛けた金額を上乗せして寄付すること。



ファミリーマートの募金累計総額

58億9,337万4,821円

(1993年～2018年8月末現在)

店頭募金・企業寄付・Famiポート募金、義援金などを含む。

ファミリーマート夢の掛け橋募金を活用した 主な活動

公益社団法人

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

2013年には「グローバルパートナーシッププログラム契約」を締結し、ファミリーマートが展開しているタイ・ベトナムなどの国・地域で、同団体と協働で防災・減災事業に取り組んでいます。



タイで開催した水難事故防止のための水泳教室

特定非営利活動法人

国際連合世界食糧計画WFP協会

国連WFPコーポレートプログラムのパートナーとして、WFPと協働で支援活動を実施。2016年からは、募金の使途をミャンマーの学校給食プログラムに指定し、寄付しています。



栄養強化ビスケットを食べる子どもたち

公益社団法人 国土緑化推進機構

幼稚園児や保育園児が、森や自然の大切さを学ぶ「森の教室」、高校生が日本各地の森・海・川の名人の知恵や生きざまを学び、持続可能な社会について考える「聞き書き甲子園」、地域のシンボルとなる記念樹の植樹や里山保全を行う「未来の森づくり事業」を通じて、森に触れ、森に学び、森を守る環境教育プログラムを提供しています。



新潟県で開催した「森の教室」

公益財団法人 米日カウンセラーズジャパン TOMODACHI イニシアチブ

東日本大震災の被災地である福島的女子高校生を対象に、普段の生活では出会うことのないさまざまな年代、国籍、経験を持つ先輩女性たちとのセッション交流を通じて、自分自身で未来を切り拓く力をつけるキャリア支援プログラムを提供しています。



ヤングアメリカンズとの「歌とダンスのワークショップ」

毎年100人の高校生が森や海・川の「名人」を訪ね、その知恵や技術、ものの考え方などを聞き、記録する「聞き書き甲子園」。その活動を主催し、森林文化の教育・啓発に携わるNPO法人共存の森ネットワーク理事長の澁澤寿一さんに持続可能な社会のあり方について聞きました。

「聞き書き甲子園」は“持続可能な知恵のアーカイブ”

NPO法人共存の森ネットワーク

理事長 澁澤 寿一さん

機械化が進むにつれて、人間の感性や見る目が退化しています。持続可能な世の中を支えていたかつての『知恵』も、その伝承が難しくなっています。私たちの活動は、その『知恵』をどう残していくかということから始まりました。

高校生たちは、樵(きこり)や造林手、漁師などの名人に話を聞き、録音した会話を書き起こす作業を続ける過程で、名人の、自然とともに生きる知恵や自然との向き合い方、そこに暮らす人々の営みなどを学んでいきます。この活動は、高校生たちによるいわば“持続可能な知恵のアーカイブ(*1)”です。名人と一対一で向き合うインタビューは、学校では習わないコミュニケーションであり、いわゆる“暗黙知”(*2)の

大切さを学ぶことにつながっています。

『地域コミュニティの再生の場』は、まさしくコンビニです

今の高校生たちは、『幸せ感』を基軸に据えた、人と自然、人と人、世代と世代などの『つながり』や『共感』などの関係性を求める傾向にあります。その観点からも『聞き書き甲子園』は非常に価値ある取り組みだと思っています。

ところで、本来の意味での『地域』というのは、そこに暮らす人々が共感できる範囲の単位であり、人口で言えば2,000～3,000人程度までです。しかし今の日本では、お互いに必要とされながら、皆で未来を育てる、その共感をベースとした『地域力』が落ちていきます。



プロフィール

1952年生まれ。東京農業大学大学院終了。農学博士
1980年国際協力事業団専門家としてパラグアイ国立農業試験場に赴任。帰国後、長崎オランダ村、循環型都市「ハウステンボス」の役員として企画、建設、運営まで携わる。
現在、共存の森ネットワーク理事長として日本やアジア各国の環境NGOと地域づくり、人づくりの活動を実践中。明治の大実業家・渋澤栄一の曾孫にあたる。

東日本大震災では、コンビニに多くの人が集まり、地域の拠点であることを実感しました。まさに人々の共感を生み出す核がコンビニだったのです。ファミリーマートが、そうした『地域コミュニティの再生の場』になることを期待しています。

(*1) アーカイブ …重要文書の記録保管所。

(*2) 暗黙知 …経験や勘に基づく知識。

ベルマーク活動

2008年4月、小売業として初めておむすび全品にベルマークを付けました。

さらに、おむすび売場にベルマーク回収BOXを設置しベルマーク回収も行っています。お客さまからお寄せいただいたベルマークは、



ファミリーマート店頭でベルマークを回収

地域の子どもたちのために店舗近隣の小学校にお届けするほか、被災地の小学校に寄贈しています。

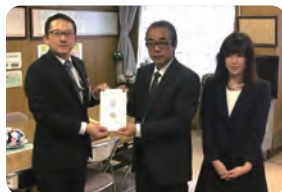
2017年12月には宮城県仙台市立四郎丸小学校を訪問し、約12万5,700点をお渡ししました。

Voice

宮城県仙台市立四郎丸小学校

白井 剛次校長先生(2017年当時)

学校から一番近いコンビニのファミリーマートには子どもたちをいつも見守っていただけており、大変心強く感じています。本校もベルマーク運動には積極的に取り組んでおり、子どもたちの成長に役立てるよう活用していきます。



左から、ファミリーマート仙台南営業所長(当時)の清和伸之、四郎丸小学校の白井剛次校長先生、ファミリーマート四郎丸吹上店の佳山政美副店長

出前授業・企業訪問

中高生向けに「出前授業」や「企業訪問」の受け入れを行っています。

岩手大学教育学部附属中学校では、3年生がコンビニエンスストアの経営者として、出店場所を検討、弁当開発の企画書作成に取り組みました。集大成として、出店、商品開発、地域社会とのかかわりについて、ファミリーマート



授業の様子

の取り組みを学び、企画書の講評を行う授業が行われました。

Voice

岩手大学教育学部附属中学校

木村 義輝先生



コンビニの出店や商品開発、地域社会とのかかわりについてお話しただき、教科書だけでは分からないことを学ぶことができました。生徒の作成したお弁当のレポート1点1点に、プロの視点からコメントをいただいたことも貴重な学びとなりました。身近なコンビニから、経済について深く考える機会になりました。

地域社会の安全・安心を守る拠点として

全国各地の店舗が、安全・安心な暮らしを支えるため、地域に密着した店舗運営に取り組んでいます。

特に近年、販売用プリペイドカードやATMを使用した特殊詐欺が多発していますが、お客さまの様子を見守ることで、未然防止につな

げています。

2018年5月11日には、特殊詐欺を未然に防いだファミリーマート大島中央銀座店（東京都江東区）に対して、警視庁城東警察署より感謝状が贈られました。

Voice

日頃からお客さまとコミュニケーションを密にとっていたこと、警察の方々と協力し合える関係性を築けていたことが犯罪を未然に防ぐ一助となりとてもうれしく思います。このような地域社会貢献ができるよう、



感謝状を手にする大島中央銀座店の皆さん

これからも地域の方々とコミュニケーションをとっていきたいと考えております。（大島中央銀座店：武内昇店長）

大島中央銀座店の 未然防止の行動

80代女性がアマゾンギフトカードの購入のため来店。ストアスタッフがレジを担当。「アマゾンギフトカードのコード番号が知りたいから教えてほしい」とお客さまに言われた。大島交番の警官の方からアマゾンギフトカード詐欺について話を聞いていたことに加え、一週間前に同じような詐欺を未然に防止していたため、詐欺だと直感した。店長を呼び改めて対応。「コード番号をこの電話番号に教える必要がある」と言われたため、詐欺だと確信し110番通報した。

児童登下校時の見守り活動

376店

女性・子どもの駆け込み
高齢者の保護

4,512店

セーフティステーション活動実施店

地域社会の安全・安心な暮らしづくりと青少年福祉の推進に努めます



ごまっだときは…
エスソウくんのお店へ!



特殊詐欺未然防止

1,867件

防災訓練・防犯講習への参加

4,285店以上

ファミリーマートは、一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会のセーフティステーション活動に積極的に参加しています。

自治体との「高齢者見守り協定」締結

地域の高齢者が事故に遭うことなく安全に暮らせるための活動に協力する「高齢者見守り協定」を5都道府県8市区と締結。お会計の時の会話や様子で、異変が見られた場合や、命を守るために早めの対応が必要だと判断した場合には通報を行うなど、高齢者などの見守り体制強化に貢献しています。



2018年5月31日には練馬区と「高齢者見守りネットワーク事業協定」を結びました

支援物資の供給を通じた被災地支援

ファミリーマートは2017年7月1日、内閣総理大臣より「指定公共機関」に指定されました。これは災害対策基本法に基づき、災害などの緊急時に国の要請に応じて緊急支援を行う企業や法人を指定するものです。全国の店舗をつなぐ物流・情報ネットワークを活かした支援物資の調達・供給を行うことで、被災地支援に努めています。

また、2017年8月31日に設立された、民間企業43社およびNPO6団体で構成される緊急災害

対応アライアンス「SEMA」(*)に参加しています。国内での大規模自然災害発生時に、加盟企業・団体が持つ物資・サービスを集約し一括して提供。公共機関との連携を図ることで情報の格差や支援物資の偏りを解決し、被災者や自治体の負担を軽減、早期復興を目指します。災害などの緊急時に、行政や「SEMA」と連携することで、さらに迅速かつ適切な被災地支援を行っていきます。

* SEMA …Social Emergency Management Allianceの略。



SEMAの仕組み